

# 令和6年9月期金沢大学学位記授与式 学長表彰者

◎学業・卒業論文等の成果が優れていると認められる者

氏名	所属	表彰理由
MOHAMMAD MEHEDI HASAN ROCKY	自然科学研究科 博士後期課程 物質化学専攻	水溶液中の有害金属や貴金属を対象としたセルロース吸着材の分離挙動について化学的観点から複合的に解析し、産業廃棄物の王水溶液から金、銀、白金、パラジウム等の貴金属元素を高選択的に回収する新技術を開発した。本技術では、新規化学修飾セルロース吸着材を利用して、王水中という過酷な条件でも影響を受けずに貴金属元素を99%以上の効率で分離回収できる。一連の研究成果は都市鉱山中の有用資源の再利用に活用できる要素技術として学術性と実用性が高く評価された。
R.R.N.A. BANDARANAYAKA WASALA MUDIYANSELAGE RASINDU UPAMALI GALAGODA	自然科学研究科 博士後期課程 環境デザイン学専攻	病原性微生物を網羅的に検出するための遺伝子解析技術を開発した。その技術を下水処理プロセスや河川環境に適用することで、病原性微生物・Mycobacterium (マイコバクテリム) が消失にくいことを明らかにした。さらに、メタオミクス解析によりそのメカニズムを解明した。これは、病原性微生物の生態を解明する上で重要な知見であり、国内外で高く評価された。
土屋 望	自然科学研究科 博士後期課程 自然システム学専攻	大陸由来の黄砂や都市汚染、シベリア森林火災など、多種多様な空気塊が高感度で観測できる能登地域の地の利を活かし、長期間にわたる地道で精緻な観測から大気エアロゾル中磁性鉱物の特性、季節の特徴を初めて明らかにした。その新規性は国内外で高く評価された。
小林 源哉	医薬保健学総合研究科 博士課程 医学専攻	イヌを用いた脊椎凍結治療モデルを作成し脊椎低温障害が発生する硬膜外温度の低温条件を検証した。実験では覚醒後運動機能評価、脊椎の病理学的評価に加え電気生理学的検査(脊椎モニタリング)を評価に用い、硬膜外温度と脊椎低温障害の関連を詳細に検討した。実験の結果、硬膜外温度が4℃を下回ると脊椎低温障害の発生リスクが高まることが明らかとなった。本研究成果は脊椎凍結治療における脊椎低温障害の予防法を確立する上で非常に重要な知見であり、多くの国内外の学会で高い評価を受けた。
高松 篤	医薬保健学総合研究科 博士課程 医学専攻	大規模な薬剤投与データベースとCT画像データベースの網羅的解析により、Pegfilgrastim投与患者に生じる大動脈炎の発生頻度や特徴を明らかにした。さらにFDG-PET/CTの検討によりPegfilgrastim関連大動脈炎と他の大動脈炎との画像所見の違いを明らかにした。これらの成果は国内外で高く評価された。
浅野 陽平	先進予防医学研究科 博士課程 先進予防医学共同専攻	液体窒素処理骨の周囲に形成される膜組織には、豊富な血管形成が起こっており、骨形成に関連する種々のgrowth factorが高発現している構造的特徴を明らかにした。さらに、膜組織内の線維芽細胞が毛細血管とともに処理骨の表面に侵入し、その周囲で骨細胞への成熟が起こることや、線維芽細胞から分化した軟骨細胞による軟骨内骨化が処理骨の骨形成に関与することを明らかにした。これらの結果は、液体窒素処理骨再建におけるさらなる骨癒合率の向上に寄与することが期待されることから、非常に重要な解析であった。